



PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: **10316727 A**(43) Date of publication of application: **02 . 12 . 98**

(51) Int. Cl.

C08F297/08
C08K 3/34
C08K 5/098
C08K 5/52
C08L 23/10
C08L 53/00

(21) Application number: **09132177**(22) Date of filing: **22 . 05 . 97**(71) Applicant: **CHISSO CORP**

(72) Inventor: **OKAYAMA CHIKASHI**
NAKAJIMA TAKANORI
AKITAYA SHINICHI
SUMI YOSHITAKA

(54) **POLYPROPYLENE RESIN COMPOSITION**

(57) Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To obtain a resin composition desirable for the production of a molding excellent in the balance among properties such as transparency, whitening resistance and low-temperature impact resistance by mixing a polymer blend comprising propylene/ α -olefin random copolymers which have propylene contents in specified different ranges and in which the ratio between the intrinsic viscosities, etc., are in specified ranges with an α -crystal nucleator in a specified ratio.

SOLUTION: This composition comprises 99-99.9999 wt. %

propylene polymer blend which comprises a propylene/ α -olefin random copolymer (A) having a propylene content of 90-99 wt. % and a propylene/ α -olefin random copolymer (B) having a propylene content of 55-90 wt. % and in which the intrinsic viscosity $[\eta]_B$ of component B is 1.3-3.5 dl/g, the ratio of the intrinsic viscosity $[\eta]_A$ of component B to that of component A, $[\eta]_B/[\eta]_A$, is 0.5-1.3, and the product of this ratio, $[\eta]_B/[\eta]_A$ and the ratio between the weights of these components, W_A/W_B is 1.0-4.5 and 1-0.0001 wt. % α -crystal nucleator.

COPYRIGHT: (C)1998,JPO

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平10-316727

(43) 公開日 平成10年(1998)12月2日

(51) Int.Cl.⁶

識別記号

F I

C 0 8 F 297/08

C 0 8 F 297/08

C 0 8 K 3/34

C 0 8 K 3/34

5/098

5/098

5/52

5/52

C 0 8 L 23/10

C 0 8 L 23/10

審査請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 12 頁) 最終頁に続く

(21) 出願番号

特願平9-132177

(22) 出願日

平成9年(1997)5月22日

(71) 出願人 000002071

チッソ株式会社

大阪府大阪市北区中之島3丁目6番32号

(72) 発明者 岡山 千加志

千葉県市原市草刈1906番地ちはら台4-14-6

(72) 発明者 中島 隆則

千葉県市原市五井8890番地

(72) 発明者 秋田谷 真一

千葉県市原市菊間2897番地79

(72) 発明者 隅 祥高

千葉県市原市辰巳台東2丁目17番地

(74) 代理人 弁理士 高木 千嘉 (外2名)

(54) 【発明の名称】 ポリプロピレン系樹脂組成物

(57) 【要約】

【課題】 透明性、難白化性および低温での耐衝撃性に優れた成形品用原料として好適なポリプロピレン系樹脂組成物を提供する。

【解決手段】 ポリプロピレン系樹脂組成物は、プロピレン- α -オレフィンランダム共重合体(A)とこのランダム共重合体(A)とは α -オレフィンの含有量が異なるプロピレン- α -オレフィンランダム共重合体(B)とからなるプロピレン系ポリマーブレンド99~99.999重量%と、 α 晶造核剤1~0.0001重量%からなり、プロピレン系ポリマーブレンドが、プロピレン- α -オレフィンランダム共重合体(B)の極限粘度 $[\eta]_B$ が1.3~3.5dl/g、そのプロピレン- α -オレフィンランダム共重合体(A)の極限粘度 $[\eta]_A$ に対する比が0.5~1.3、かつプロピレン- α -オレフィンランダム共重合体(B)とプロピレン- α -オレフィンランダム共重合体(A)の極限粘度比と重量比との積 $([\eta]_B/[\eta]_A) \cdot (W_A/W_B)$ が1.0~4.5の範囲にあることを特徴とする。

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 プロピレン含有量が 9 0 ~ 9 9 重量%であるプロピレン- α -オレフィンランダム共重合体(A)とプロピレン含有量が 5 5 ~ 9 0 重量%であるプロピレン- α -オレフィンランダム共重合体(B)とからなるプロピレン系ポリマーブレンド 9 9 ~ 9 9 . 9 9 9 9 重量%、および α 晶造核剤 1 ~ 0 . 0 0 0 1 重量%からなり、

プロピレン系ポリマーブレンドが、プロピレン- α -オレフィンランダム共重合体(B)の極限粘度 $[\eta]_b$ が 1 . 3 ~ 3 . 5 dl/g、プロピレン- α -オレフィン共重合体(B)とプロピレン- α -オレフィン共重合体(A)との極限粘度比 $[\eta]_b/[\eta]_a$ が 0 . 5 ~ 1 . 3、かつプロピレン- α -オレフィン共重合体(A)とプロピレン- α -オレフィン共重合体(B)との極限粘度比 $[\eta]_b/[\eta]_a$ とそれらの重量比 W_a/W_b との積 $([\eta]_b/[\eta]_a) \cdot (W_a/W_b)$ が 1 . 0 ~ 4 . 5 の範囲の物性を有することを特徴とするポリプロピレン系樹脂組成物。

【請求項 2】 プロピレン系ポリマーブレンドが、プロピレン系ポリマーブレンドの重量基準で 1 0 ~ 5 0 重量%のプロピレン- α -オレフィンランダム共重合体(B)を含有量する請求項 1 記載の樹脂組成物。

【請求項 3】 α 晶造核剤が、タルク、芳香族カルボン酸金属塩、ジベンジリデンソルビトール系化合物、芳香族リン酸金属塩、ポリ(3-メチルー1-ブテン)、ポリビニルシクロヘキサン、ポリアリルトリメチルシランおよびそれらの混合物よりなる群から選択される請求項 1 記載の樹脂組成物。

【発明の詳細な説明】

【0 0 0 1】

【発明の属する技術分野】本発明は、ポリプロピレン系樹脂組成物に係り、さらに詳しくは、プロピレン系ポリマーブレンドを主成分とする透明性、難白化性および低温での耐衝撃性に優れた樹脂組成物に関する。

【0 0 0 2】

【従来の技術】ポリプロピレン樹脂は比較的安価で、優れた熱的および機械的特性を有することから今日では多岐の分野にわたり使用されている。しかしながら、一般にプロピレンホモポリマーは高い剛性を有する反面、耐衝撃性、特に低温での耐衝撃性が劣っている。プロピレンホモポリマーの低温での耐衝撃性を向上させたものとして、まず最初にプロピレンホモポリマー成分を、次いでエチレン-プロピレンランダム共重合体成分を生成させたプロピレン系ブロック共重合体組成物を主成分とする樹脂組成物が、自動車、家電分野等を始めとして各産業分野に広く採用されている。

【0 0 0 3】これらの従来から使用されているプロピレン系ブロック共重合体組成物は、耐衝撃性に優れた反面、ホモポリマーに比較して透明性が劣り、また衝撃時を受けた時の白化が大きい。プロピレン系ブロック共重

合体組成物の衝撃白化の欠点を改良する方法として、これまで共重合体中のエチレンの含有量を増やす方法や、プロピレン系ブロック共重合体組成物にポリエチレンを添加する方法が提案されている。いずれの方法も衝撃白化性を改良するには優れた方法であるが、同時に製品の透明性が低下する。

【0 0 0 4】また、特開平 5 - 331327号公報は、プロピレンホモポリマー成分とエチレン-プロピレンランダム共重合体成分の極限粘度比のみを規定したプロピレン系ブロック共重合体組成物を含むポリマー組成物を、特開平 6 - 145268号公報は、プロピレンホモポリマー成分の極限粘度、およびエチレン-プロピレン共重合体成分の極限粘度との極限粘度比およびエチレン-プロピレンランダム共重合体成分のエチレン含有量を規定したポリマー組成物を提案している。また、特開昭 56 - 72042号公報や特開昭 57 - 63350号公報は、少量のエチレンを含有したエチレン/プロピレン共重合体とエチレン/プロピレン共重合体とをブレンドしたポリオレフィン樹脂組成物を開示している。

【0 0 0 5】

【発明が解決しようとする課題】これらのポリマー組成物を主成分とする樹脂組成物の射出成形品のヘイズの測定結果からの衝撃白化性や透明性は、従来のプロピレン系ブロック共重合体組成物に比較して改善は見られるもののさらに改善の余地がある。また、ブレンド工程の採用は最終製品における各成分の分散性のばらつきにより、各種の特性にもばらつきが発生する可能性がある。

【0 0 0 6】本発明は、プロピレン系ポリマーブレンドを主成分とする透明性、難白化性および低温での耐衝撃性などの諸特性のバランスの優れた成形品の製造用に好適な樹脂組成物を提供することを目的とする。

【0 0 0 7】

【課題を解決するための手段】本発明者らは前記目的達成のために鋭意研究を行った結果、プロピレン- α -オレフィンランダム共重合体(A)とこのランダム共重合体(A)とは異なる α -オレフィン含有量を有するプロピレン- α -オレフィンランダム共重合体(B)とからなり、プロピレン- α -オレフィンランダム共重合体(B)の極限粘度、両共重合体の極限粘度比およびこの極限粘度比と両共重合体の重量比との積が一定の範囲にあるプロピレン系ポリマーブレンドと α 晶造核剤とからなる樹脂組成物の成形品が、透明性、難白化性および低温での耐衝撃性のバランスが優れることを見出し、本発明を完成した。

【0 0 0 8】本発明は、プロピレン含有量が 9 0 ~ 9 9 重量%であるプロピレン- α -オレフィンランダム共重合体(A)とプロピレン含有量が 5 5 ~ 9 0 重量%であるプロピレン- α -オレフィンランダム共重合体(B)とからなるプロピレン系ポリマーブレンド 9 9 ~ 9 9 . 9 9 9 9 重量%、および α 晶造核剤 1 ~ 0 . 0 0 0 1 重量%

からなり、プロピレン系ポリマーブレンドが、プロピレン- α -オレフィンランダム共重合体(B)の極限粘度 $[\eta]_B$ が1.3~3.5dl/g、プロピレン- α -オレフィン共重合体(B)とプロピレン- α -オレフィン共重合体(A)との極限粘度比 $[\eta]_B/[\eta]_A$ が0.5~1.3、かつプロピレン- α -オレフィン共重合体(A)とプロピレン- α -オレフィン共重合体(B)との極限粘度比 $[\eta]_B/[\eta]_A$ とそれらの重量比 W_A/W_B との積 $([\eta]_B/[\eta]_A) \cdot (W_A/W_B)$ が1.0~4.5の範囲の物性を有することを特徴とするポリプロピレン系樹脂組成物である。

【0009】

【発明の実施の形態】本発明において、プロピレン系ポリマーブレンド中のプロピレン- α -オレフィンランダム共重合体(A)は、プロピレン含有量が90~99重量%のプロピレンとプロピレン以外の α -オレフィンとのランダム共重合体である。共重合体(A)のプロピレン含有量が過小な場合、成形品の耐熱性が低下し、一方、過大な場合には難白化性が不十分となる。共重合体(A)のプロピレン含有量は、好ましくは92~99重量%である。

【0010】プロピレン- α -オレフィンランダム共重合体(A)の α -オレフィン成分として、エチレン、1-ブテン、1-ペンテン、1-ヘキセン、1-オクテン、1-デセン、1-ドデセン、4-メチル-1-ペンテン、3-メチル-1-ペンテン等を挙げることができ、製造コストの点からエチレンが好適である。

【0011】プロピレン系ポリマーブレンドの他方の成分、プロピレン- α -オレフィンランダム共重合体(B)は、プロピレン含有量が55~90重量%のプロピレンとプロピレン以外の α -オレフィンとのランダム共重合体である。共重合体(B)のプロピレン含有量が過大な場合、成形品の低温での耐衝撃性が不十分となり、一方、過小な場合には、透明性が低下する。共重合体(B)の好ましいプロピレン含有量は55~85重量%である。プロピレン- α -オレフィンランダム共重合体(B)の α -オレフィン成分として、前記共重合体(A)と同様の化合物を挙げることができ、ここでもエチレンが好適である。

【0012】プロピレン- α -オレフィンランダム共重合体(B)は、135℃のテトラリン中で測定した極限粘度 $[\eta]_B$ が1.3~3.5dl/g、より好ましくは1.5~3.0dl/gの範囲にあり、かつプロピレン- α -オレフィンランダム共重合体(A)の同一条件で測定した極限粘度 $[\eta]_A$ に対する極限粘度比 $[\eta]_B/[\eta]_A$ が0.5~1.3、好ましくは0.6~1.2の範囲にある。プロピレン- α -オレフィンランダム共重合体(B)の極限粘度 $[\eta]_B$ は直接測定できないので、直接測定可能なプロピレン- α -オレフィンランダム共重合体(A)の極限粘度 $[\eta]_A$ および最終生成物であるプロピレン系ポリマーブ

レンドの極限粘度 $[\eta]_{\text{WHOLE}}$ 、ならびにプロピレン- α -オレフィンランダム共重合体(B)の重量%(W_B)から、下記式により求める。

$$[\eta]_B = \{ [\eta]_{\text{WHOLE}} - (1 - W_B/100) [\eta]_A \} / (W_B/100)$$

【0013】プロピレン- α -オレフィンランダム共重合体(B)の極限粘度 $[\eta]_B$ は、成形サイクル性および成形品の透明性に影響し、プロピレン- α -オレフィンランダム共重合体(B)とプロピレン- α -オレフィンランダム共重合体(A)との極限粘度比 $[\eta]_B/[\eta]_A$ は、プロピレン- α -オレフィンランダム共重合体(B)のプロピレン- α -オレフィンランダム共重合体(A)への分散性に影響する。プロピレン- α -オレフィンランダム共重合体(B)の極限粘度 $[\eta]_B$ が大きいほど成形サイクル性が低下する。また、プロピレン- α -オレフィンランダム(A)との極限粘度比が大きすぎると透明性が低下し、小さすぎると低温での耐衝撃性が不足し、目的とする特性を達成できない。

【0014】プロピレン系ポリマーブレンドにおいて、プロピレン- α -オレフィンランダム共重合体(A)とプロピレン- α -オレフィンランダム共重合体(B)との重量比 W_A/W_B は、前記した両共重合体の極限粘度比 $[\eta]_B/[\eta]_A$ との積、 $([\eta]_B/[\eta]_A) \cdot (W_A/W_B)$ が1.0~4.5の範囲である。両共重合体の重量比と極限粘度比との積は、組成物の難白化性を表す指標であり、その値が小さくなると難白化性は改善されるが、耐熱性や剛性の低下が大きくなり、一方、大きくなると目的とする難白化性の改善効果が得られない。プロピレン系ポリマーブレンドの具体的な組成は、ポリマーブレンドの重量基準でプロピレン- α -オレフィンランダム共重合体(A)90~50重量%およびプロピレン- α -オレフィンランダム共重合体(B)10~50重量%である。

【0015】プロピレン系ポリマーブレンドは、上記の諸特性を満足すればいかなる方法で製造してもよいが、下記の気相中における2段連続重合法を採用することにより好適に製造することができる。

【0016】この2段連続重合法は、平均粒径が20~300 μm のチタン含有固体触媒成分、有機アルミニウム化合物、および有機ケイ素化合物を組み合わせた立体規則性触媒の存在下に、気相中においてプロピレンとプロピレン以外の α -オレフィンとを共重合させて所定量のかつ所定の組成比を有するプロピレン- α -オレフィンランダム共重合体(A)を生成させる第1重合工程、次いでプロピレンとプロピレン以外の α -オレフィンとをそれらの組成比を変えて共重合させて残部のプロピレン- α -オレフィンランダム共重合体(B)を生成させる第2重合工程を順に連続的に実施することからなる。

【0017】上記製造方法において、チタン含有固体触媒成分として、マグネシウム化合物、シリカ化合物、アルミナ等の無機担体やポリスチレン等の有機担体にチタン化合物を担持させたもの、またかかる担体に必要に

10

20

30

40

50

応じてエーテル類、エステル類などの電子供与性化合物を反応させた平均粒径が20～300μmの範囲のものを公知の触媒を含めて使用することができる。

【0018】たとえば、マグネシウム化合物—アルコール溶液をスプレー造粒して固体成分を部分乾燥した後、乾燥固体成分をハロゲン化チタンおよび電子供与性化合物で処理したチタン含有固体触媒成分(特開平3-119003号公報)、マグネシウム化合物をテトラヒドロフラン／アルコール／電子供与体に溶解させ、TiCl₄単独または電子供与体の組み合わせで析出させたマグネシウム担体を、さらにハロゲン化チタンおよび電子供与性化合物で処理したチタン含有固体触媒成分(特開平4-103604号公報)などが挙げられる。

【0019】チタン含有触媒成分は、平均粒径が20～300μm、好ましくは20～150μmのものを用いる。チタン含有触媒成分の平均粒径が過小な場合、得られるプロピレン系ポリマーブレンドのパウダーの流動性が著しく損なわれ、重合器の器壁や攪拌翼等への付着による重合系内の汚染や重合器から排出されたパウダーの搬送が困難になる等、安定運転の大きな妨げとなる。また、チタン含有触媒成分は、正規分布における均一度が2.0以下の粒径分布を有するものが好ましい。均一度が大きくなるとプロピレン系ポリマーブレンドのパウダー流動性が悪化して連続での安定運転が困難となる。

【0020】有機アルミニウム化合物として、一般式がA₁R¹_mX_{3-m}。(式中R¹は、炭素数1～20の炭化水素基を、Xはハロゲン原子を表し、mは3≧m>1.5の正数である)で表される有機アルミニウム化合物を用いることができる。

【0021】具体的には、トリメチルアルミニウム、トリエチルアルミニウム、トリ-n-プロピルアルミニウム、トリ-n-ブチルアルミニウム、トリ-i-ブチルアルミニウム、ジメチルアルミニウムクロリド、ジエチルアルミニウムクロリド、メチルアルミニウムセスキクロリド、ジ-n-プロピルアルミニウムモノクロリド、エチルアルミニウムセスキクロリド、ジエチルアルミニウムアイオダイド、エトキシジエチルアルミニウム等を挙げることができ、好ましくはトリエチルアルミニウムを使用する。これら有機アルミニウム化合物は1種の単独あるいは2種以上の混合物として使用することができる。

【0022】有機ケイ素化合物としては、一般式R²₂R³₂Si(OR⁴)₂(式中R²およびR³は炭化水素基、R⁴は炭化水素基あるいはヘテロ原子を含む炭化水素基を表し、0≦X≦2、1≦Y≦3、1≦Z≦3かつX+Y+Z=4である)で表される有機ケイ素化合物が使用される。

【0023】具体的にはメチルトリメトキシシラン、エチルトリメトキシシラン、n-プロピルトリメトキシシラン、フェニルメチルジメトキシシラン、t-ブチルト

リメトキシシラン、t-ブチルトリエトキシシラン、フェニルトリエトキシシラン、メチルエチルジメトキシシラン、メチルフェニルジエトキシシラン、ジメチルジメトキシシラン、ジメチルジエトキシシラン、ジイソプロピルジメトキシシラン、ジイソブチルジメトキシシラン、ジ-t-ブチルジメトキシシラン、ジフェニルジメトキシシラン、トリメチルメトキシシラン、シクロヘキシルメチルジメトキシシラン、トリメチルエトキシシラン等を挙げることができる。好ましくは、ジイソブチルジメトキシシラン、ジイソプロピルジメトキシシラン、ジ-t-ブチルジメトキシシラン、シクロヘキシルメチルジメトキシシランおよびジフェニルジメトキシシランが使用される。これらの有機ケイ素化合物は1種の単独あるいは2種以上の混合物として使用することができる。

【0024】前記チタン含有固体触媒成分、有機アルミニウム化合物および有機ケイ素化合物を組み合わせた立体規則性触媒を、第1重合工程のプロピレンとプロピレン以外のα-オレフィンとの共重合に用いるが、チタン含有固体触媒にα-オレフィンを予め反応させて予備活性化処理して用いることが好ましい。

【0025】チタン含有固体触媒成分の予備活性化処理は、前記本重合に用いる有機アルミニウム化合物と同様の有機アルミニウム化合物の存在下または非存在下に実施できるが、通常チタン含有固体触媒成分中のチタン原子1モルに対して有機アルミニウム化合物を0.1～40モル、好ましくは0.3～20モルの範囲で用い、10～80℃で10分～48時間かけてチタン含有固体触媒成分1グラム当たり0.1～100グラム、好ましくは0.5～50グラムのα-オレフィンを反応させる。好ましい有機アルミニウム化合物はトリエチルアルミニウムである。

【0026】予備活性化処理においては、予め前記本重合に用いる有機ケイ素化合物と同様の有機ケイ素化合物を有機アルミニウム化合物1モルに対して0.01～10モル、好ましくは0.05～5モルの範囲で用いてもよい。好ましい有機ケイ素化合物は、ジイソブチルジメトキシシラン、ジイソプロピルジメトキシシラン、ジ-t-ブチルジメトキシシラン、シクロヘキシルメチルジメトキシシランおよびジフェニルジメトキシシランなどである。

【0027】チタン含有固体触媒成分の予備活性化処理に用いられるα-オレフィンは、エチレン、プロピレン、1-ブテン、1-ペンテン、1-ヘキセン、1-オクテン、1-デセン、1-ドデセン、1-テトラデセン、1-ヘキサデセン、1-オクタデセン、1-エイコセン、4-メチル-1-ペンテン、3-メチル-1-ペンテン等であり、これらは単独のみならず、他のオレフィンとの2種以上の混合物であってもよい。また、その重合に際して生成するポリマーの分子量を調節するため

10

20

30

40

50

に水素等の分子量調節剤を併用することもできる。

【0028】チタン含有固体触媒成分の予備活性化処理に用いられる不活性溶剤は、ヘキサン、ヘプタン、オクタン、デカン、ドデカンおよび流動パラフィン等の液状飽和炭化水素やジメチルポリシロキサン等の構造を持ったシリコンオイル等重合反応に著しく影響を及ぼさない不活性溶剤である。これらの不活性溶剤は1種の単独溶剤または2種以上の混合溶剤のいずれでもよい。これらの不活性溶剤の使用に際しては重合に悪影響を及ぼす水分、イオウ化合物等の不純物を取り除いた後で使用する

ことが好ましい。

【0029】プロピレン系ポリマーブレンドの製造方法において、上記の方法で予備活性化処理したチタン含有固体触媒成分の存在下に、気相中においてプロピレンとプロピレン以外の α -オレフィンとを共重合する第1重合工程、次いで第1重合工程とはプロピレン含有率を変えてプロピレンと α -オレフィンとの共重合を行う第2重合工程を連続実施する。第1重合工程は気相重合には限定されずにスラリー重合や塊状重合を採用することもできるが、それに連続する第2重合工程が気相重合であることが好ましいことから、第1重合工程も気相重合を採用する。第2重合工程としてスラリー重合や塊状重合を採用した場合、共重合体が溶液中に溶出し、安定運転の継続が困難となる。

【0030】プロピレン- α -オレフィンランダム共重合体(A)の重合条件は重合形式で異なるが、気相重合の場合、一定量のパウダーを混合攪拌しながら予備活性化処理したチタン含有固体触媒成分、有機アルミニウム成分および有機ケイ素化合物からなる立体規則性触媒の存在下、重合温度20~120℃、好ましくは40~100℃、重合圧力大気圧~9.9MPa、好ましくは0.59~5.0MPaの条件下にプロピレンとプロピレン以外の α -オレフィンを供給してプロピレン- α -オレフィンランダム共重合体(A)を重合する。有機アルミニウム化合物とチタン含有固体触媒成分の使用率(モル比)はAl/Ti=1~500、好ましくは10~300である。この場合、チタン含有固体触媒成分のモル数は、チタン含有固体触媒成分中に存在する実質的なTiグラ

ラム原子数をいう。

【0031】有機ケイ素化合物と有機アルミニウム成分の使用率(モル比)はAl/Si=1~10、好ましくは1.5~8である。Al/Siモル比が過大な場合、プロピレン- α -オレフィンランダム共重合体(A)の低結晶成分が増加し、プロピレン系ポリマーブレンドの剛性が不十分となると共にパウダーの流動性が低下して安定運転の継続が困難となる。また、Al/Siモル比が過小な場には重合活性が著しく低下し、生産性が低下する。

【0032】プロピレン- α -オレフィンランダム共重合体(A)の分子量の調節には、重合時に水素のような分

子量調節剤の使用が可能であり、プロピレン- α -オレフィンランダム共重合体(A)の極限粘度が本発明の要件を満たすように実施される。プロピレン- α -オレフィンランダム共重合体(A)を重合後、生成したパウダーの一部を抜き出し、極限粘度($[\eta]_0$)、メルトフローレート(MFR₀)ならびに触媒単位重量当たりの重合収量の測定に供する。

【0033】第1重合工程のプロピレン- α -オレフィンランダム共重合体(A)の重合に引き続いて、重合温度20~120℃、好ましくは40~100℃、重合圧力大気圧~9.9MPa、好ましくは0.59~5.0MPaの条件下で、プロピレンとプロピレン以外の α -オレフィンとの混合モノマーの組成比を第1重合工程とは変えて共重合させてプロピレン- α -オレフィンランダム共重合体(B)を生成させる第2重合工程を実施する。プロピレン- α -オレフィンランダム共重合体(B)中の α -オレフィン単位含有量はモノマーガス中の α -オレフィンモノマーとプロピレンモノマーのガスモル比を制御して、共重合体中の α -オレフィン単位含有量が10~45重量%になるように調節する。

【0034】一方、プロピレン- α -オレフィンランダム共重合体(A)の重量に対するプロピレン- α -オレフィンランダム共重合体(B)の重量は、重合時間の調節や一酸化炭素や硫化水素等の触媒の重合活性調節剤を使用して、プロピレン- α -オレフィンランダム共重合体(B)の重量を10~50重量%に調節する。さらに、プロピレン- α -オレフィンランダム共重合体(B)の分子量は、プロピレン- α -オレフィンランダム共重合体(B)の極限粘度($[\eta]_0$)が前記プロピレン系ポリマーブレンドの要件を満たすように水素のような分子量調節剤をプロピレン- α -オレフィンランダム共重合体(B)の重合時に加えて調節される。

【0035】重合方式は、回分式、反連続式あるいは連続式のいずれでも採用できるが、工業的には連続式重合が好ましい。

【0036】第2重合工程の終了後に、重合系からモノマーを除去して粒子状ポリマーを得ることができる。得られたポリマーを極限粘度($[\eta]_{\text{whole}}$)、 α -オレフィン含量の測定ならびに触媒単位重量当たりの重合収量の測定に供する。

【0037】本発明のポリプロピレン系樹脂組成物は、前記諸特性を満足するプロピレン系ポリマーブレンドと少量の α 晶造核剤とからなり、透明性、難白化性および低温での耐衝撃性が優れた成形品の製造用原料として好適に使用することができる。

【0038】本発明において、 α 晶造核剤として各種無機化合物、各種カルボン酸またはその金属塩、ジベンジリデンソルビトール系化合物、アリアルフォスフェート系化合物、環状多価金属アリアルフォスフェート系化合物と脂肪族モノカルボン酸アルカリ金属塩または塩基性

アルミニウム・リチウム・ヒドロキシ・カーボネート・
 ハイドレートとの混合物、各種高分子化合物を使用する
 ことができる。

【0039】無機化合物の例として、タルク、ミョウバ
 ン、シリカ、酸化チタン、酸化カルシウム、酸化マグネ
 シウム、カーボンブラック、粘土鉱物などを挙げること
 ができる。

【0040】カルボン酸の例として、マロン酸、コハク
 酸、アジピン酸、マレイン酸、アゼライン酸、セバシン
 酸、ドデカンジ酸、クエン酸、ブタントリカルボン酸、
 ブタンテトラカルボン酸、ナフテン酸、シクロペンタン
 カルボン酸、1-メチルシクロペンタンカルボン酸、2-
 メチルシクロペンタンカルボン酸、シクロペンテンカ
 ルボン酸、シクロヘキサンカルボン酸、1-メチルシク
 ロヘキサンカルボン酸、4-メチルシクロヘキサンカル
 ボン酸、3,5-ジメチルシクロヘキサンカルボン酸、
 4-ブチルシクロヘキサンカルボン酸、4-オクチルシ
 クロヘキサンカルボン酸、シクロヘキセンカルボン酸、
 4-シクロヘキセン-1,2-ジカルボン酸、安息香
 酸、トリル酸、キシリル酸、エチル安息香酸、4-
 t-ブチル安息香酸、サリチル酸、フタル酸、トリメリッ
 ト酸、ピロメリット酸などの脂肪族モノカルボン酸を除
 くカルボン酸が挙げられ、それらのカルボン酸の金属塩
 としてリチウム、ナトリウム、カリウム、マグネシウ
 ム、カルシウム、ストロンチウム、バリウム、亜鉛また
 はアルミニウムの正塩もしくは塩基性塩が挙げられる。

【0041】ジベンジリデンソルビトール系化合物の例
 として、1,3,2,4-ジベンジリデンソルビトール、
 1,3-ベンジリデン-2,4-p-メチルベンジリデン
 ソルビトール、1,3-ベンジリデン-2,4-p-エチ
 ルベンジリデンソルビトール、1,3-p-メチルベン
 ジリデン-2,4-ベンジリデンソルビトール、1,3-
 p-エチルベンジリデン-2,4-ベンジリデンソルビ
 トール、1,3-p-メチルベンジリデン-2,4-p-
 エチルベンジリデンソルビトール、1,3-p-エチル
 ベンジリデン-2,4-p-メチルベンジリデンソルビ
 トール、1,3,2,4-ビス(p-メチルベンジリデ
 ン)ソルビトール、1,3,2,4-ビス(p-エチルベ
 ンジリデン)ソルビトール、1,3,2,4-ビス(p-
 n-プロピルベンジリデン)ソルビトール、1,3,2,
 4-ビス(p-i-プロピルベンジリデン)ソルビト
 ール、1,3,2,4-ビス(p-n-ブチルベンジリデ
 ン)ソルビトール、1,3,2,4-ビス(p-s-ブチ
 ルベンジリデン)ソルビトール、1,3,2,4-ビス
 (p-t-ブチルベンジリデン)ソルビトール、1,3
 -(2',4'-ジメチルベンジリデン)-2,4-ベン
 ジリデンソルビトール、1,3-ベンジリデン-2,4-
 (2',4'-ジメチルベンジリデン)ソルビトール、
 1,3,2,4-ビス(2',4'-ジメチルベンジリデ
 ン)ソルビトール、1,3,2,4-ビス(3',4'-ジ

メチルベンジリデン)ソルビトール、1,3,2,4-ビ
 ス(p-メトキシベンジリデン)ソルビトール、1,3,
 2,4-ビス(p-エトキシベンジリデン)ソルビト
 ール、1,3-ベンジリデン-2,4-p-クロルベンジリ
 デンソルビトール、1,3-p-クロルベンジリデン-
 2,4-ベンジリデンソルビトール、1,3-p-クロル
 ベンジリデン-2,4-p-メチルベンジリデンソルビ
 トール、1,3-p-クロルベンジリデン-2,4-p-
 エチルベンジリデンソルビトール、1,3-p-メチル
 ベンジリデン-2,4-p-クロルベンジリデンソルビ
 トール、1,3-p-エチルベンジリデン-2,4-p-
 クロルベンジリデンソルビトール、1,3,2,4-ビス
 (p-クロルベンジリデン)ソルビトールなどが挙げら
 れる。

【0042】アリアルフォスフェート系化合物の例とし
 て、リチウム-ビス(4-t-ブチルフェニル)フォス
 フェート、ナトリウム-ビス(4-t-ブチルフェニ
 ル)フォスフェート、リチウム-ビス(4-キユミルフ
 ェニル)フォスフェート、ナトリウム-ビス(4-キユ
 ミルフェニル)フォスフェート、カリウム-ビス(4-
 t-ブチルフェニル)フォスフェート、カルシウム-モ
 ノ(4-t-ブチルフェニル)フォスフェート、カルシ
 ウム-ビス(4-t-ブチルフェニル)フォスフェ
 ート、マグネシウム-モノ(4-t-ブチルフェニル)フ
 オスフェート、マグネシウム-ビス(4-t-ブチルフ
 ェニル)フォスフェート、ジンク-モノ(4-t-ブチ
 ルフェニル)フォスフェート、ジンク-ビス(4-t-
 ブチルフェニル)フォスフェート、アルミニウムジヒ
 ドロオキシ- (4-t-ブチルフェニル)フォスフェ
 ート、アルミニウムヒドロオキシ-ビス(4-t-ブチ
 ルフェニル)フォスフェート、アルミニウム-トリス(4
 -t-ブチルフェニル)フォスフェート、ナトリウム-
 2,2'-メチレン-ビス(4,6-ジ-t-ブチルフェ
 ニル)フォスフェート、ナトリウム-2,2'-エチリ
 デン-ビス(4,6-ジ-t-ブチルフェニル)フォス
 フェート、ナトリウム-2,2'-メチレン-ビス(4
 -キユミル-6-t-ブチルフェニル)フォスフェ
 ート、リチウム-2,2'-メチレン-ビス(4,6-ジ
 t-ブチルフェニル)フォスフェート、リチウム-2,
 2'-エチリデン-ビス(4,6-ジ-t-ブチルフェ
 ニル)フォスフェート、リチウム-2,2'-メチレン
 -ビス(4-キユミル-6-t-ブチルフェニル)フォ
 スフェート、ナトリウム-2,2'-エチリデン-ビス
 (4-i-プロピル-6-t-ブチルフェニル)フォス
 フェート、リチウム-2,2'-メチレン-ビス(4-
 メチル-6-t-ブチルフェニル)フォスフェート、リ
 チウム-2,2'-メチレン-ビス(4-エチル-6-
 t-ブチルフェニル)フォスフェート、ナトリウム-
 2,2'-ブチリデン-ビス(4,6-ジ-メチルフェニ
 ル)フォスフェート、ナトリウム-2,2'-ブチリデ

ン-ビス (4,6-ジ-*t*-ブチルフェニル) フォスフェート、ナトリウム-2,2'-*t*-オクチルメチレン-ビス (4,6-ジ-メチルフェニル) フォスフェート、ナトリウム-2,2'-*t*-オクチルメチレン-ビス (4,6-ジ-*t*-ブチルフェニル) フォスフェート、ナトリウム-2,2'-メチレン-ビス (4-メチル-6-*t*-ブチルフェニル) フォスフェート、ナトリウム-2,2'-メチレン-ビス (4-エチル-6-*t*-ブチルフェニル) フォスフェート、ナトリウム (4,4'-ジメチル-6,6'-ジ-*t*-ブチル-2,2'-*t*-ビフェニル) フォスフェート、ナトリウム-2,2'-エチリデン-ビス (4-*s*-ブチル-6-*t*-ブチルフェニル) フォスフェート、ナトリウム-2,2'-メチレン-ビス (4,6-ジ-メチルフェニル) フォスフェート、ナトリウム-2,2'-メチレン-ビス (4,6-ジ-エチルフェニル) フォスフェート、カリウム-2,2'-エチリデン-ビス (4,6-ジ-*t*-ブチルフェニル) フォスフェート、カルシウム-ビス [2,2'-メチレン-ビス (4,6-ジ-*t*-ブチルフェニル) フォスフェート]、マグネシウム-ビス [2,2'-メチレン-ビス (4,6-ジ-*t*-ブチルフェニル) フォスフェート]、ジンク-ビス [2,2'-メチレン-ビス (4,6-ジ-*t*-ブチルフェニル) フォスフェート]、アルミニウム-トリス [2,2'-メチレン-ビス (4,6-ジ-*t*-ブチルフェニル) フォスフェート]、カルシウム-ビス [2,2'-メチレン-ビス (4-メチル-6-*t*-ブチルフェニル) フォスフェート]、カルシウム-ビス [2,2'-エチリデン-ビス (4,6-ジ-*t*-ブチルフェニル) フォスフェート]、カルシウム-ビス [2,2'-*o*-チオビス (4-メチル-6-*t*-ブチルフェニル) フォスフェート]、カルシウム-ビス [2,2'-*o*-チオビス (4-エチル-6-*t*-ブチルフェニル) フォスフェート]、カルシウム-ビス [2,2'-*o*-チオビス (4,6-ジ-*t*-ブチルフェニル) フォスフェート]、マグネシウム-ビス [2,2'-*o*-チオビス (4,6-ジ-*t*-ブチルフェニル) フォスフェート]、マグネシウム-ビス [2,2'-*o*-チオビス (4-*t*-オクチルフェニル) フォスフェート]、バリウム-ビス [2,2'-メチレン-ビス (4,6-ジ-*t*-ブチルフェニル) フォスフェート]、カルシウム-ビス [(4,4'-ジメチル-6,6'-ジ-*t*-ブチル-2,2'-*t*-ビフェニル) フォスフェート]、マグネシウム-ビス [2,2'-エチリデン-ビス (4,6-ジ-*t*-ブチルフェニル) フォスフェート]、バリウム-ビス [2,2'-エチリデン-ビス (4,6-ジ-*t*-ブチルフェニル) フォスフェート]、アルミニウム-トリス [2,2'-エチリデン-ビス (4,6-ジ-*t*-ブチルフェニル) フォスフェート]、アルミニウムジヒドロ

オキシ-2,2'-メチレン-ビス (4-キュミル-6-*t*-ブチルフェニル) フォスフェート、アルミニウムヒドロオキシ-ビス [2,2'-メチレン-ビス (4,6-ジ-*t*-ブチルフェニル) フォスフェート]、アルミニウムヒドロオキシ-ビス [2,2'-メチレン-ビス (4-キュミル-6-*t*-ブチルフェニル) フォスフェート]、チタンジヒドロオキシ-ビス [2,2'-メチレン-ビス (4,6-ジ-*t*-ブチルフェニル) フォスフェート]、チンジヒドロオキシ-ビス [2,2'-メチレン-ビス (4,6-ジ-*t*-ブチルフェニル) フォスフェート]、ジルコニウムオキシ-ビス [2,2'-メチレン-ビス (4,6-ジ-*t*-ブチルフェニル) フォスフェート]、アルミニウムジヒドロオキシ-2,2'-メチレン-ビス (4-メチル-6-*t*-ブチルフェニル) フォスフェート、アルミニウムヒドロオキシ-ビス [2,2'-メチレン-ビス (4-メチル-6-*t*-ブチルフェニル) フォスフェート]、アルミニウムジヒドロオキシ-2,2'-エチリデン-ビス (4,6-ジ-*t*-ブチルフェニル) フォスフェート、アルミニウムヒドロオキシ-ビス [2,2'-エチリデン-ビス (4,6-ジ-*t*-ブチルフェニル) フォスフェート] などが挙げられる。

【0043】前記アリアルフォスフェート系化合物の内、環状多価金属アリアルフォスフェート系化合物と混合使用される脂肪族モノカルボン酸のアルカリ金属塩の例として、酢酸、乳酸、プロピオン酸、アクリル酸、オクチル酸、イソオクチル酸、ノナン酸、デカン酸、ラウリン酸、ミリスチン酸、パルミチン酸、ステアリン酸、オレイン酸、リノール酸、リノレン酸、12-ヒドロキシステアリン酸、リシノール酸、ベヘン酸、エルカ酸、モンタン酸、メリシン酸、ステアロイル乳酸、 β -ドデシルメルカプト酢酸、 β -ドデシルメルカプトプロピオン酸、 β -N-ラウリルアミノプロピオン酸、 β -N-メチル-N-ラウロイルアミノプロピオン酸などのリチウム、ナトリウムまたはカリウム塩が挙げられる。

【0044】高分子化合物の例として、ポリ3-メチル-1-ブテン、ポリ3-メチル-1-ペンテン、ポリ3-エチル-1-ペンテン、ポリ4-メチル-1-ペンテン、ポリ4-メチル-1-ヘキセン、ポリ4,4-ジメチル-1-ペンテン、ポリ4,4-ジメチル-1-ヘキセン、ポリ4-エチル-1-ヘキセン、ポリ3-エチル-1-ヘキセン、ポリアリルナフタレン、ポリアリルノルボルナン、アタクティックポリスチレン、シンジオタクティックポリスチレン、ポリジメチルスチレン、ポリビニルナフタレン、ポリアリルベンゼン、ポリアリルトルエン、ポリビニルシクロペンタン、ポリビニルシクロヘキサン、ポリビニルシクロヘプタン、ポリビニルトリメチルシラン、ポリアリルトリメチルシランなどが挙げられる。

【0045】本発明においては、特にタルク、アルミニ

ウムヒドロオキシービス(4-*t*-ブチルベンゾエート)、1・3,2・4-ジベンジリデンソルビトール、1・3,2・4-ビス(*p*-メチルベンジリデン)ソルビトール、1・3,2・4-ビス(*p*-エチルベンジリデン)ソルビトール、1・3,2・4-ビス(2',4'-ジメチルベンジリデン)ソルビトール、1・3,2・4-ビス(3',4'-ジメチルベンジリデン)ソルビトール、1・3-*p*-クロルベンジリデン-2・4-*p*-メチルベンジリデンソルビトール、1・3,2・4-ビス(*p*-クロルベンジリデン)ソルビトール、ナトリウム-ビス(4-*t*-ブチルフェニル)フォスフェート、ナトリウム-2,2'-メチレン-ビス(4,6-ジ-*t*-ブチルフェニル)フォスフェート、およびカルシウム-2,2'-メチレン-ビス(4,6-ジ-*t*-ブチルフェニル)フォスフェート、アルミニウム-2,2'-メチレン-ビス(4,6-ジ-*t*-ブチルフェニル)フォスフェート、アルミニウムジヒドロオキシ-2,2'-メチレン-ビス(4,6-ジ-*t*-ブチルフェニル)フォスフェート、アルミニウムヒドロオキシ-ビス[2,2'-メチレン-ビス(4,6-ジ-*t*-ブチルフェニル)フォスフェート]などの環状多価金属アリアルフォスフェート系化合物と脂肪族モノカルボン酸アルカリ金属塩との混合物、ポリ3-メチル-1-ブテン、ポリビニルシクロヘキサン、ポリアリルトリメチルシランなどの高分子化合物が好ましく使用される。これら α 晶造核剤は単独使用はもちろんのこと、2種以上を併用することもできる。

【0046】本発明のポリプロピレン系樹脂組成物は、前述のプロピレン系ポリマーブレンド99~99.99重量%、および α 晶造核剤0.0001~1重量%、好ましくは0.001~0.8重量%を含有する。

【0047】本発明のポリプロピレン系樹脂組成物は、通常プロピレン重合体に添加される各種の添加剤たとえばフェノール系、チオエーテル系、リン系などの酸化防止剤、光安定剤、重金属不活性化剤(銅害防止剤)、透明化剤、 β 晶造核剤、滑剤、帯電防止剤、防曇剤、アンチブロッキング剤、無滴剤、過酸化物の如きラジカル発生剤、難燃剤、難燃助剤、顔料、ハロゲン捕捉剤、金属石ケン類などの分散剤若しくは中和剤、有機系や無機系の抗菌剤、無機充填剤、たとえばタルク、マイカ、クレー、ウォラストナイト、ゼオライト、カオリン、ベントナイト、パーライト、ケイソウ土、アスベスト、炭酸カルシウム、炭酸マグネシウム、水酸化アルミニウム、水酸化マグネシウム、ハイドロタルサイト、塩基性アルミニウム・リチウム・ヒドロキシ・カーボネート・ハイドレート、二酸化ケイ素、二酸化チタン、酸化亜鉛、酸化マグネシウム、酸化カルシウム、硫化亜鉛、硫酸バリウム、硫酸マグネシウム、ケイ酸カルシウム、ケイ酸アルミニウム、ガラス繊維、チタン酸カリウム、炭素繊維、カーボンブラック、グラファイト及び金属繊維

維など、カップリング剤、たとえばシラン系、チタネート系、ボロン系、アルミネート系、ジルコアルミネート系など、およびこれらのカップリング剤で表面処理された前記無機充填剤または有機充填剤、たとえば木粉、パルプ、故紙、合成繊維、天然繊維などを本発明の目的を損なわない範囲で併用することができる。

【0048】本発明のポリプロピレン系樹脂組成物は、前記プロピレン系ポリマーブレンドに前記 α 晶造核剤および前記結晶性プロピレン重合体に通常添加される各種添加剤のそれぞれの所定量を通常の混合装置たとえばヘンシェルミキサー(商品名)、スーパーミキサー、リボンブレンダー、パンバリミキサーなどを用いて混合し、通常の単軸押出機、2軸押出機、ブラレンダーまたはローラなどで、熔融混練温度170℃~300℃、好ましくは200℃~270℃で熔融混練しペレタイズすることにより製造することができる。得られた組成物は射出成形法、押出成形法、ブロー成形法などの各種成形法により目的とする成形品の製造に供することができる。

【0049】

【実施例】本発明を実施例および比較例により更に具体的に説明する。

1) 各種物性測定法

実施例および比較例において採用した測定方法は下記のとおりである。

a) 極限粘度(dl/g): 溶媒としてテトラリン(テトラヒドロナフタレン)を用い135℃の温度条件下、自動粘度測定装置(AVS2型、三井東圧(株)製)を使用して測定した。

b) チタン含有固体触媒成分の粒度(μ m)および均一度: マスターサイザー(MALVERN社製)を用いて測定した粒度分布から算出した平均粒径を粒度とし、また60%篩下の粒径を10%篩下の粒径で割った値を均一度とした。

c) エチレン単位含有率(重量%): 赤外線吸収スペクトル法により測定した。

d) メルトフローレート(g/10分): JIS K-7210に準拠して測定した。

【0050】2) チタン含有固体触媒成分の調製

a) チタン含有固体触媒成分: A

窒素置換したSUS製オートクレーブに、95.3gの無水MgCl₂および35.2mlの乾燥EtOHを入れ、この混合物を攪拌下に105℃に加熱し溶解させた。1時間攪拌後、この溶液を105℃に加熱した加圧窒素(1.1MPa)で二流体スプレーノズルに送入した。窒素ガスの流量は38リットル/分であった。スプレー塔中に冷却用液体窒素を導入し、塔内温度を-15℃に保持した。生成物を塔内底部に導入した冷却ヘキサン中に集め256gを得た。生成物の分析結果から、この担体の組成は出発溶液と同じMgCl₂・6EtOHであった。担体に用いるため、篩い分けを行い45~212 μ mの粒径で球

形な担体 205 g を得た。得られた担体を室温で、18 時間、3 リットル／分の流量の窒素を用いて通気乾燥して組成が $\text{MgCl}_2 \cdot 1.7\text{EtOH}$ の乾燥担体を得た。

【0051】ガラスフラスコ中において、乾燥担体 20 g、四塩化チタン 160 ml、精製 1,2-ジクロルエタン 240 ml を混合し、攪拌下に 100℃ に加熱した後、ジイソブチルフタレート 6.8 ml 加え、さらに 100℃ で 2 時間加熱した。デカンテーションにより液相部を除き、再び、四塩化チタン 160 ml、精製 1,2-ジクロルエタン 320 ml を加えた。100℃ に 1 時間加熱保持した後、デカンテーションにより液相部を除き、精製ヘキサンで洗浄した後、乾燥してチタン含有固体触媒成分：A-1 を得た。得られたチタン含有固体触媒成分：A-1 の平均粒径は 115 μm であり、その分析値は、Mg ; 19.5 重量%、Ti ; 1.6 重量%、Cl ; 59.0 重量%、ジイソブチルフタレート ; 4.5 重量% であった。

【0052】3) チタン含有固体触媒成分の予備活性化処理

内容積 15 リットルの傾斜羽根付きステンレス製反応器を窒素ガスで置換した後、40℃ での動粘度が 7.3 センチストークスである飽和炭化水素溶剤 (CRYSTOL-52、エッソ石油(株)製) 8.3 リットル、トリエチルアルミニウム 525 mmol、ジイソプロピルジメトキシシラン 80 mmol、前項で調製したチタン含有固体触媒成分 700 g を室温で加えた後、40℃ まで加温し、プロピレン分圧 0.15 MPa で 7 時間反応させ、予備活性化処理を行った。分析の結果、チタン含有固体触媒成分 1 g 当りプロピレン 3.0 g が反応していた。

【0053】4) 第 1 重合工程

添付図 1 に示すフローシートにおいて、攪拌羽根を有する横型重合器 (L/D=6、内容積 100 リットル) に上記予備活性化処理したチタン含有固体触媒成分を 0.5 g/hr、有機アルミニウム化合物としてトリエチルアルミニウムおよび有機ケイ素化合物としてジイソプロピルジメトキシシランを表 1 に示す A1/Si モル比となるように連続的に供給した。表 1 に示す C2/C3 モル比のプロピレン-エチレンの混合ガスを反応温度 65℃、反応圧力 2.2 MPa、攪拌速度 40 rpm の条件を維持しながら連続供給し、さらに反応器の気相中の水素濃度を表 1 に示す H2/C3 モル比に維持するように水素ガスを循環配管 2 より連続的に供給し、生成ポリマーすなわちプロピレン- α -オレフィンランダム共重合体(A)の極限粘度を制御して分子量を調節した。

【0054】反応熱は配管 3 から供給される原料プロピレンの気化熱により除去した。重合器から排出される未反応ガスは配管 4 を通して反応器系外で冷却、凝縮させて本重合器 1 に還流した。本重合器で得られたプロピレン- α -オレフィンランダム共重合体(A)は、重合体の保有レベルが反応容積の 50 容積%となる様に配管 5 を

通して重合器 1 から連続的に抜き出し第 2 重合工程の重合器 10 に供給した。この時、配管 5 からプロピレン- α -オレフィンランダム共重合体(A)の一部を間欠的に抜き出して、エチレン含有量、極限粘度および触媒単位重量当りの重合体収量を求める試料とした。触媒単位重量当りの重合体収量は重合体中の Mg 分の誘導結合プラズマ発光分光分析 (ICP 法) により測定した。

【0055】5) 第 2 重合工程

攪拌羽根を有する横型重合器 10 (L/D=6、内容積 100 リットル) に第 1 重合工程からのプロピレン- α -オレフィンランダム共重合体(A)およびエチレン-プロピレン混合ガスを連続的に供給し、エチレンとプロピレンの共重合を行った。反応条件は攪拌速度 40 rpm、温度 60℃、圧力 2.2 MPa であり、気相のガス組成を表 1 に示すエチレン/プロピレン (C2/C3) モル比および水素/エチレン (H2/C2) モル比に調節した。プロピレン- α -オレフィンランダム共重合体(B)の重合量を調節するための重合活性抑制剤として一酸化炭素、およびプロピレン- α -オレフィンランダム共重合体(B)の分子量を調節するための水素ガスを配管 7 よりそれぞれ供給した。

【0056】反応熱は配管 6 から供給される原料液状プロピレンの気化熱で除去した。重合器から排出される未反応ガスは、配管 8 を通して反応器系外で冷却、凝縮させて本共重合工程に還流させた。共重合工程で生成したプロピレン系ポリマーブレンドは、重合体の保有レベルが反応容積の 50 容積%となるように配管 9 で重合器 10 から抜き出した。プロピレン系ポリマーブレンドの生産速度は 8~12 kg/hr であった。

【0057】抜き出されたプロピレン系ポリマーブレンドはモノマーを除去し、一部は極限粘度 ($[\eta]_{\text{MOLE}}$) の測定、および赤外によるプロピレン- α -オレフィンランダム共重合体(B)中のエチレンの測定、ならびに ICP 法による重合体中の Mg 分の測定によるコポリマー成分の重合比率の測定に供した。

【0058】チタン含有固体触媒成分の種類、第 1 重合工程における A1/Si モル比、エチレン/プロピレンモル比および水素/プロピレンモル比、ならびに第 2 重合工程におけるエチレン/プロピレンモル比および水素/エチレンモル比を、表 1 に示すように変えて実施例 1~5 および比較例 1~2 の試料を得た。諸物性の測定結果を、表 1 に示す。

【0059】6) 射出成形品の製造

上記で得られたパウダー状のプロピレン系ポリマーブレンド 100 重量部に対して、 α 晶造核剤として α -1 : アルミニウムヒドロキシビス (4-t-ブチルベンゾエート)、 α -2 : 1.3, 2.4-ビス (p-メチルベンジリデン) ソルビトール、または α -3 : ナトリウム-2, 2'-メチレンビス (4, 6-ジ-t-ブチルフェニル) フォスフェートを表 1 に示す重量部、フェノール

系熱安定剤としてテトラキス（メチレン-3-（3', 5'-ジ-tert-ブチル-4'-ヒドロキシフェニル）プロピオネート）メタン0.1重量部および中和剤としてステアリン酸カルシウム0.1重量部を配合し、高速攪拌式混合機（ヘンシェルミキサー）を用いて、室温下に10分間混合し、混合物をスクリュ-口径40mmの押出造粒機を用いてシリンダー設定温度230℃で造粒した。次いで、造粒物からJIS形のテストピースを射出成形機を用いて熔融樹脂温度250℃、金型温度50℃で作成した。得られたテストピースを湿度50%、室温23℃の室内で72時間状態調整して下記の方法に基づき諸物性値を測定し、結果を表1中に示した。

【0060】a) 曲げ弾性率(MPa)：JIS K 7203に準拠して測定した。

b) ヘイズ：上記条件で調整した25×50×1mmの平*

* 板状のサンプルを用い、ASTM D 1003に準拠して測定した。

c) アイゾット衝撃値：JIS K 6758に準拠して測定した。

d) 衝撃白化：上記条件で調整した50×50×2mmの平板状のサンプルをデュボン衝撃試験機（東洋精機製）を用い、下記の条件下で荷重を落とし、その衝撃により平板に生じる白化点の直径を測定した。

撃芯先端半径 0.635 cmR

受け台内径 3.81 cmφ

荷重 500 g

荷重落下高さ 1 m

【0061】

【表1】

		表 1						
		実施例1	実施例2	実施例3	実施例4	実施例5	比較例1	比較例2
第1重合工程								
Al/Siモル比		5	5	5	6	6	6	6
重合圧力	MPa	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2
重合温度	℃	65	65	65	65	65	65	65
H2/C3モル比	×10 ⁻³	8.4	8.4	8.4	5.5	25	35	71
C2/C3モル比		0.021	0.021	0.021	0.014	0.011	0.023	0.022
共重合体(A)								
生成量V _A	wt%	79.8	79.8	79.8	71.0	71.3	80.0	79.0
極限粘度[η] _A	dl/g	2.1	2.1	2.1	2.3	1.8	1.7	1.6
プロピレン含有量	wt%	97.0	97.0	97.0	98.5	98.5	97	97.0
メルトフローレートMFR _A	g/10分	2.2	2.2	2.2	1.5	6	7.6	14.5
第2重合工程								
重合圧力	MPa	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2
重合温度	℃	60	60	60	60	60	60	60
C2/C3モル比		0.15	0.15	0.15	0.32	0.32	0.14	0.7
H2/C2モル比		0.38	0.38	0.38	0.25	1.05	0.004	0.06
共重合体(B)								
生成量V _B	wt%	20.2	20.2	20.2	29.0	28.7	20.0	21.0
プロピレン含有率	wt%	75	75	75	65	65	75	50
極限粘度[η] _B	dl/g	2.1	2.1	2.1	2.3	1.8	4.2	2.9
メルトフローレートMFR _B	g/10分	2.2	2.2	2.2	1.5	6.0	0.036	0.4

【0062】

【表2】

表 1 (続き)

	実施例1	実施例2	実施例3	実施例4	実施例5	比較例1	比較例2
プロピレン系ポリマーブレンド							
W_A/W_B	4.0	4.0	4.0	2.4	2.5	4.0	3.8
極限粘度 $[\eta]_{\text{WHOLE}}$ dl/g	2.1	2.1	2.1	2.3	1.8	2.1	1.9
極限粘度比 $[\eta]_B/[\eta]_A$	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	2.5	1.8
$([\eta]_B/[\eta]_A) \times (W_A/W_B)$	4.0	4.0	4.0	2.4	2.5	9.8	6.8
メルトフローレートMFR _{WHOLE} g/10分	2.2	2.2	2.2	1.5	6.0	2.6	6.8
プロピレン系樹脂組成物							
プロピレン系ポリマーブレンド 重量部	100	100	100	100	100	100	100
α 晶造核剤							
[1] 重量部	0.3	0	0	0	0	0	0
[2] 重量部	0	0.3	0	0	0	0	0
[3] 重量部	0	0	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3
成形品物性							
曲げ弾性率 MPa	650	620	610	550	670	570	600
ヘイズ %	20	16	15	28	32	50	90
アイソット衝撃値 0℃ kJ/m ²	40	40	45	>50	>50	>50	>50
-20℃	5.5	6	7	17	6.5	7	10
衝撃白化径 mm	11.5	11.5	11	12.2	12.5	14	20

α 晶造核剤[1]: ナトリウム-2,2'-メチレンビス(4,6-ジ-*t*-ブチルフェニル)フォスフェート

α 晶造核剤[2]: アルミニウムヒドロキシオキシビス(4-*t*-ブチルベンゾエート)

α 晶造核剤[3]: 1,3,2,4-ビス(p-メチルベンジリデン)ソルビトール

【0063】

【発明の効果】本発明の前記プロピレン系ポリマーブレンドおよび α 晶造核剤と含有する樹脂組成物から得られた成形品は、透明性、難白化性および低温での耐衝撃性ならびにそれらのバランスが優れている。

【図面の簡単な説明】

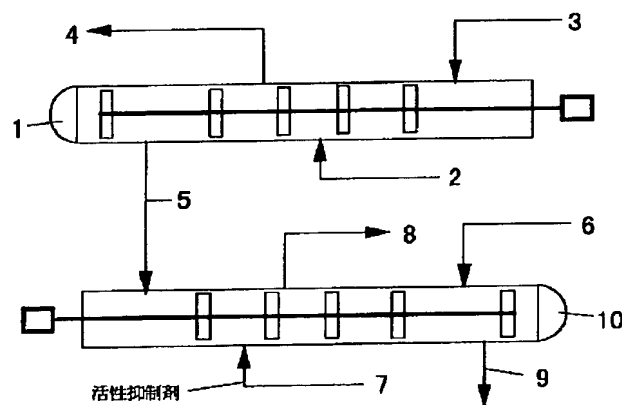
【図1】実施例で用いた連続重合装置のフローシート。*

*【符号の説明】

- 1および10: 重合器
- 2: 水素配管
- 3: 原料プロピレン配管
- 4および8: 未反応ガス配管
- 5および9: 重合体抜き出し配管
- 6: 原料混合ガス配管

30

【図1】



フロントページの続き

(51) Int. Cl. ⁶

C 0 8 L 53/00

識別記号

F I

C 0 8 L 53/00